一般質問

松村治門議員

● 道の駅について

そのほかの質問
・特産品開発について

問 ①重点道の駅に選定されたことにより、今後、道の駅に関する議論が活性化するものと思われるが、県内にある15の道の駅の経営状況はどのようになっているか。
②ありふれた商品や成熟した市場（コモディティ化した市場）に参入することは、経営上のタブーとされる。県内に15もある道の駅に、あえて勝山市が参入する意味はあるのか。
③勝山市内の農業・商工業の発展のために道の駅を活用するという趣旨は理解できるが、逆の観点から言えば、道の駅をつくるという手法以外の方法はないのか。他の全ての手法を検討した結果、道の駅の資本投下効率が良いというのならばわかるが、最初から道の駅決め打ちの感が強い。他の手法はありえないのか。

答 ①現段階においては、県内の道の駅の詳細な経営状況についての資料はないが、道の駅の計画を進めていく上で、とても重要な資料であると認識している。今後調査し、その経営状況等の資料がまとまり次第、誘客拠点整備に関する特別委員会において報告する。
②③たくさんあるから、もうつくらなくても良いという観点には賛成できない。たくさんあればあるほど、努力により独自性、魅力が際立つ。勝山でも様々な地域で様々な方が、様々なものを作っている。そういったものを販売し、消費者の意見を聞いて、新しいものにチャレンジしていくことが必要。しかし、市場が限定されている。現在、勝山の人たちが作ったものを売る場が求められている。

これまでもそのような取り組みを段階的に進めてきた。農業者、特に直売所・加工所を運営されている方に対して、恐竜博物館前でテント市を開催してきた。そういったところで、観光客に対してどのようなものが売れるかを生産者に感じてもらうのが大事だと考えている。また、福井市や県外へ出荷する際には、数量の確保が必要であり、その確保が難しいと聞いている。そういった意味でも少量のものを、わざわざ勝山市に買いに来てもらう仕組み作りが必要。

勝山で勝山にしかないようなものを売ることで、市外から人が来る。そのような取り組みを農業・商工業者に期待して、そのための場をつくる。いまも多くの努力により、様々な勝山独自の商品がある。そういった市民の努力が評価され、売上につながる道の駅をつくりたい。

特別委員会報告

新体育館建設特別委員会

本特別委員会は、12月定例会以降、1月29日、2月18日及び3月23日に委員会を開き、新体育館建設工事の進捗状況、新体育館のトレーニングルームの運営体制 及び 新体育館完成後の既存体育施設も含めた管理体制について理事者から詳細な説明を聴取しました。

委員会では、新体育館建設工事の完了にあわせて現地視察を行うとともに、供用開始までのスケジュールを確認しました。

新体育館のトレーニングルームの運営体制については、他市の状況を確認し、利用者が安全に安心して利用できるよう議論を重ねました。

既存体育施設の管理体制については、市民にとって更に利用しやすい施設とするための提言に対し、職員や管理人の配置など、より良い体制になるよう見直されました。

また、新体育館の運営については、清掃方法の改善など、より効率的な運営を行うよう求めました。

今後も、新体育館の供用開始に向けて、理事者と、種々議論を重ねていきます。

誘客拠点整備に関する特別委員会

12月定例会で、議員派遣の議決を得て、1月13日、14日の両日、議長をはじめ、6人の議員が、地元選出国会議員方に対し、当市の道の駅計画が重点道の駅として採択されるよう、要望活動を行った結果、1月27日には皆様に重点道の駅に選定された旨の報告をしました。また、本特別委員会は、12月定例会以降、1月29日及び3月23日に委員会を開き、